

世界を魅了する“デニムの聖地”岡山県井原市
「井原デニム」の発信拠点として井原駅をリニューアル
3月20日(月)テープカット
～「ミュージアム」「スタジオ」「ストア」の3エリアで井原デニムの魅力を発信～

井原被服協同組合(住所:岡山県井原市七日市町、理事長 青木 茂)は、2017年3月20日(月)に井原デニムの魅力の発信拠点として井原駅(岡山県)をリニューアルします。

今回のリニューアルでは、店舗面積を拡大し井原デニムの歴史や魅力を再発見できる「ミュージアム」、新商品開発や人材育成、観光体験などの拠点「スタジオ」、井原発の個性豊かなブランド商品を販売する「ストア」の3つのエリアで構成し、井原デニムの魅力を発信します。



■井原駅内・井原デニムの発信拠点がリニューアルオープン

井原地域は、ヨーロッパの有名ブランドやアメリカの高級ジーンズアパレルを魅了する織物メーカーが集まり、「デニムの聖地」といわれています。世界を魅了する井原デニムの魅力をより多くの人に知ってもらいたいと考えます。

① ミュージアムエリア

井原デニムの歴史はもちろん、デニムがどのような過程で生産されるか、そしてどのような道具を使ってきたかなど、井原デニムの歴史や魅力を再発見できる展示を行います。

② スタジオエリア

地域の人や、観光客などに向けて、楽しく体験のできるワークショップやデニム産業に携わるための技術を学ぶための講座を開催します。

織物から縫製、洗い加工までの会社が集積する地域の特性を生かして、新しいブランドを立ち上げようとする起業家が商品開発をする場にすべく、本格的な設備を整備します。

③ ストア

誇るべき井原発のブランド商品を展示販売します。

世界が認めるデニム生地を小売りするコーナーや、その素材を使って、ジーンズ、スーツ、ネクタイ、帽子、バッグなど、オーダーメイドに対応するコーナーも設置します。

■ 井原デニムストア概要

住所 : 井原市七日市町 944-5 (井原鉄道井原駅構内)
TEL : 070-5057-6070 (携帯)
営業時間 : 11:00~18:00
定休日 : 水曜日 (祝祭日と重なる場合はその翌日)
E-Mail : info@ibara-denim.com
URL : <http://www.ibara-denim.com>
運営 : 井原被服協同組合



■ 本プロジェクト参加企業抜粋

出品業者: モードブランニングタニモト [THORNYPANT]

多様化するシーンやニーズに対し、オプションのパーソナルなチョイスが可能。リアルクローズを意識しつつも一癖ある、そんなユニフォームのようなデイリーウェアを提案します。

【販売品目】コート、ジャケット、パンツ、小物

出品業者: 青木被服(株)[prix de budou J&Company]2ブランド

Prix de budou (デニム着物)

井原市で織り成されたデニムを使用し作成されたのがこの DENIM 着物です。

生地選びから拘り、1枚ずつ一人の職人の手により縫製された着物は、長年で得る色落ちと共に柔らかな風合いを楽しんでいただける着物となっています。デニム帯・小物とともにご愛用下さい。

【販売品目】着物、帯、手提げバッグ

J&Company: レディース・ジーンズブランド

NO GENDER が注目される中、より女性らしくフェミニンなスタイルを IBARA デニムで提案。「脚長・美脚」に加え、ヒップを包み込み「美尻」を感じてもらえるこだわりの素材を使用。またキュートなヒップを演出すべく立体的なディテールをプラスしました。

【販売品目】レディースジーンズ

出品業者: タカヤ商事(株) [H.A.K.U(メンズ)、COCHIKU(レディース)]

H.A.K.U(エイチエーケーユー): 日々の生活に寄り添ったこだわりの道具の様な存在、ベーシックで不変的な中にこだわりのストーリーを織り交ぜたメンズパンツブランド

COCHIKU: ヨーロッパのファッション性とデザイン性、日本のメーカーならではの細やかな物づくり。そのデザイン性と機能性を兼ね備えたアイテム

出品業者: studio M [commonplace、Ancours]

commonplace: 上質な素材と匠の技と独創的なデザインで「洗練された大人のためのトータルウェア」を発信します。

Ancours: 世界が認めた「デニムの聖地」井原デニムと匠の技「豊岡の鞆」がコラボレーションした鞆ブランド。デニム、革、ナイロンを組み合わせた新しいアイテムを発信します。

【販売品目】デニムテーラージャケット、パンツ、スカート、シャツ、リュック、トートバッグ、財布

出品業者:おのはなこ商店 [H. Faire]

井原デニムを使ったオーダースーツをはじめ、ネクタイ、帽子などの服飾雑貨のオーダーメイドも取り扱います。

【販売品目】オーダーのデニムスーツ、帽子、服飾雑貨

■販売商品一例



■井原デニムの歴史

・江戸時代初期(1650年頃)

綿花栽培、藍栽培を行い、藍染織物(手織り)の産地として発展。

・明治～大正時代

自動織機を導入し「備中小倉」のブランドで厚地藍染綿織物が大量に生産されるようになり、学生服や作業服の服地に使用され、国内はもとより海外へも大量に輸出されていました。

そのバリエーションのひとつとして「裏白」と呼ばれていた表面が藍色、裏面が生成(白)の厚地織物があり、まさにそれが、米国で”DENIM”と呼ばれていたものと同様のものであり、国産デニムのルーツと云われています。

・昭和20年(1945年)頃※終戦後

GHQ が持ち込んだ米国文化の流入とともに、“裏白”をベースにしたデニム生地、ジーンズの生産が始まりました。

・昭和45年(1970年)頃

年間1500万本のジーンズを井原で生産(国内の75%の生産量)を誇るまでになりました。

・平成～

低賃金の労働力を使った輸入品によって価格破壊がおき、井原のデニム関連のメーカーは大打撃を被りました。

・現在

井原デニムは、シャトル織機から産み出されるセルビッチデニムをはじめ、ジャガードなどの柄物、草木染めなどの染料や、オーガニックコットンなどの差別化された原料、シルクやレーヨン、機能的な合成繊維との組み合わせなど、デニムの無限の可能性を創造し続けています。そんな井原デニムに世界が注目、欧米のバイヤーから絶賛され、欧米向けに数多く輸出されています。